ArTra Group

アトラグループ株式会社

2026年12月期

第３四半期決算説明資料

2026年11月13日

アトラグループ株式会社（東証スタンダード市場・名証メイン市場：6029）

目次　Contents

Ⅰ. 業績ハイライトと財務状況

1. ハイライト
2. 変革の歩み（2025年12月～）
3. 業績サマリー（連結P/L主要指標）
4. 営業損益のブリッジ分析（ウォーターフォール）
5. セグメント別業績詳細＋A-COMS事業KPI
6. リスクと対策
7. 貸借対照表（B/S）構成比推移
8. 有利子負債・自己資本比率の推移

Ⅱ. 業績予想・成長戦略・トピックス

9. 通期業績予想（修正後）と進捗率
10. 通期業績予想の推移（期中3回の修正）
11. 成長の3層構造
12. 成長戦略ロードマップ
13. クオンタムリープとの資本業務提携
14. A-COMS周辺領域の拡大施策
15. 新たな事業 ― SIbot株式会社
16. トピックス ― REMED社との業務提携の進捗
17. 参考資料

© ArTra Group Corporation

ハイライト

3Q FY2026 Key Messages

01

営業利益・経常利益が大幅増益

+182.9%

営業利益251百万円（前年同期：88百万円）

A-COMS事業の増収増益と販管費の効率化が寄与。
営業利益は前年同期の約2.8倍に拡大。
本業の収益基盤は一段と強化。

02

A-COMS事業は増収増益を継続

+18.3% / +105.8%

売上2,051百万円 / 利益257百万円

支援6領域すべてが前年同期を上回り、機材・消耗品販売（+32.6%）が牽引。サブスク型の収益基盤も着実に拡大。

03

通期予想を上方修正（今期3回目）

300百万円

通期営業利益（前回予想：160百万円）

売上高3,000・営業利益300・純利益180百万円へ上方修正。
営業・経常利益は前期実績の2倍超水準を見込む。

▶ 本業で稼ぐ体制が整いつつあり、通期予想を上方修正。足元を固めながら、新たな事業領域へ。

変革の歩み ― 2025年12月以降の主な取り組み

2025年12月のクオンタムリープとの資本業務提携を起点に、選択と集中・新たな提携・新規事業の立ち上げを一つずつ実行。

2025年12月 ｜ 提携

クオンタムリープ株式会社と資本業務提携

変革の起点。最先端技術・海外ネットワークの取り込みへ

2026年3月 ｜ 構造改革

玩具販売事業（株式会社ペリカン）を譲渡

選択と集中。A-COMS事業へ経営資源を集中

2026年4月 ｜ 提携

REMED社と業務提携に関する覚書（MOU）締結

韓国KOSDAQ上場の医療機器メーカー。クオンタムリープの海外ネットワークを通じて実現

2026年5月 ｜ 業績

通期業績予想を修正（1回目）

玩具販売事業の連結除外を踏まえ、営業利益・経常利益を上方修正

2026年7月 ｜ 新領域

長崎県立大学へヒューマノイドロボットを寄贈

ロボティクス・フィジカルAI分野の知見蓄積と事業機会の探索

2026年8月 ｜ 業績

通期業績予想を上方修正（2回目）

営業利益160百万円へ。純利益は黒字転換の見込みへ

2026年10月 ｜ 新領域

RBB株式会社との合弁会社「SIbot株式会社」設立を決議

子会社の新たな事業として、ロボットの販売・導入支援等を開始予定

2026年11月 ｜ 業績

通期業績予想を上方修正（3回目）

営業利益300百万円へ。前期実績の2倍超の水準

▶ 「本業で稼ぐ力の回復」と「次の成長領域への布石」を、並行して一つずつ着実に実行してまいりました。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

© ArTra Group Corporation

業績サマリー — 連結P/L主要指標

減収（△14.2%）は玩具販売事業の譲渡によるもの。A-COMS事業の増収増益により、営業利益・経常利益は大幅に拡大。

指標	2025年12月期 第3四半期累計（前年同期）	2026年12月期 第3四半期累計（当期）	増減額	増減率
売上高	2,827	2,425	△402	**△14.2%**
売上総利益	990	945	△45	**△4.5%**
（売上総利益率）	35.0%	38.9%	+3.9pt	—
販管費	901	693	△207	**△23.0%**
営業利益	88	251	+162	**+182.9%**
経常利益	97	258	+161	**+166.6%**
親会社株主に帰属する四半期純利益	178	117	△61	**△34.3%**

（単位：百万円）

なぜこの数字か（要因分析）

■ 売上高 2,425百万円（△14.2%）
- A-COMS事業 +18.3%（2,051百万円）
- 玩具販売事業 △65.9%（373百万円、1-3月のみ）

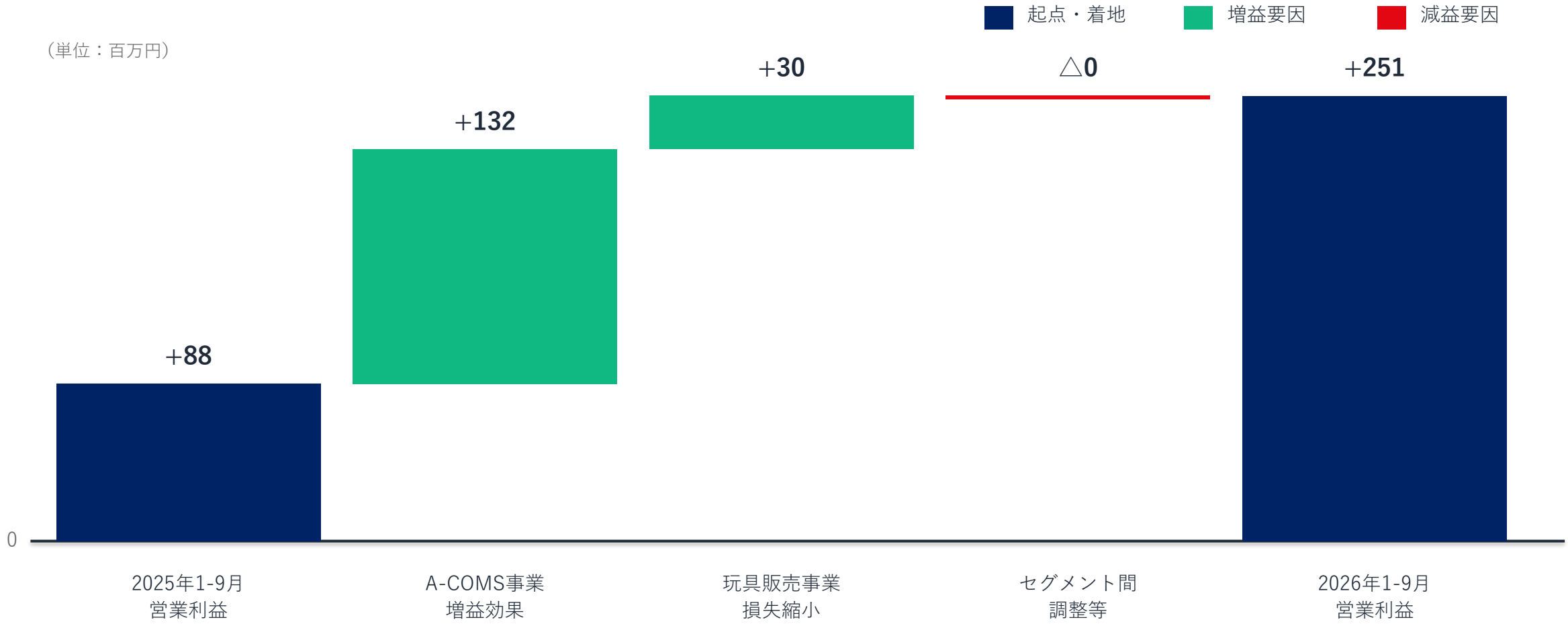
■ 営業利益 251百万円（+182.9%）
- 売上総利益率 35.0% → 38.9%へ改善
- 販管費 △207百万円（△23.0%）
  A-COMS事業の増収増益と玩具事業の連結除外が寄与

■ 四半期純利益 117百万円（△34.3%）
- 関係会社株式売却損 △130百万円（1Q計上・一過性）
- 前年同期は投資有価証券売却益92百万円を計上

© ArTra Group Corporation

営業損益のブリッジ分析（ウォーターフォール）

A-COMS事業の増益（+132）と玩具販売事業の損失縮小（+30）により、営業利益は251百万円へ拡大。



▶ A-COMS事業の増益（+132百万円）を主因に、営業利益は前年同期比+182.9%の251百万円に拡大。

セグメント別業績詳細＋A-COMS事業KPI

A-COMS事業は売上高+18.3%・利益+105.8%。支援6領域すべてが増収となり、機材・消耗品販売（+32.6%）が牽引。

■ 報告セグメント別業績（2026年1-9月）

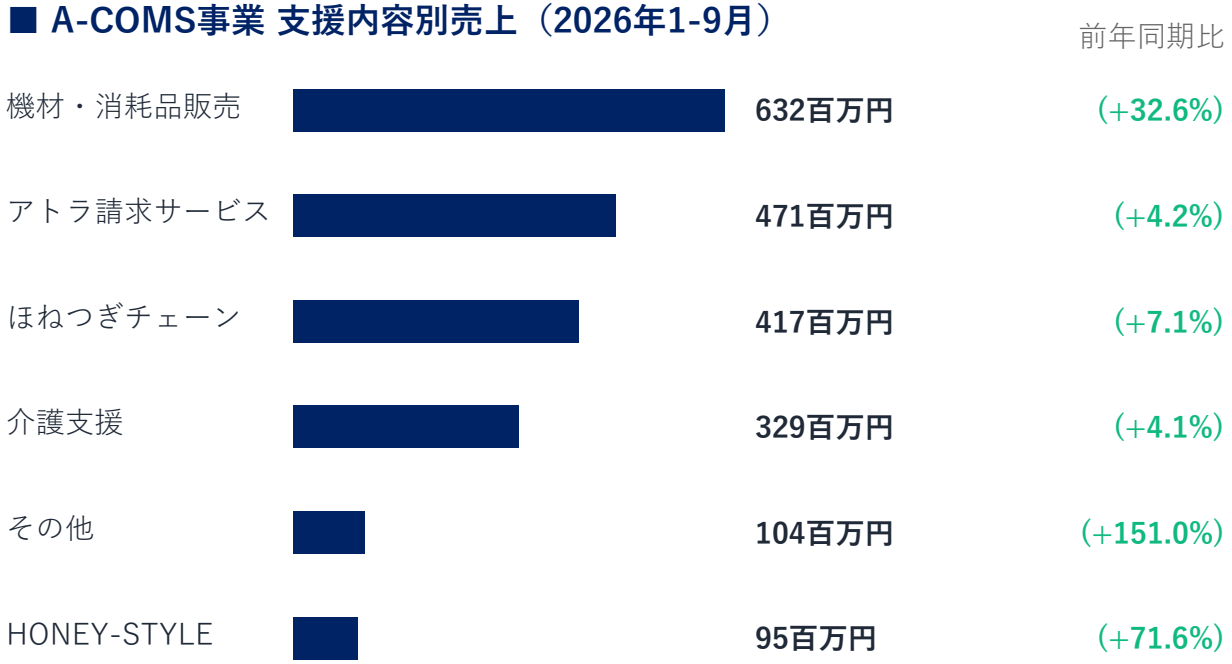
セグメント	売上高	前年同期比	セグメント利益／損失
A-COMS事業	2,051	+18.3%	+257
玩具販売事業	373	△65.9%	△7
合計（調整前）	2,425	△14.2%	+250

（単位：百万円）

玩具販売事業：2026年3月末で連結除外

・売上373百万円（前年同期比△65.9%、1-3月のみ）
・セグメント損失△7百万円
→ 前年同期（△37百万円）比で30百万円改善
・2026年3月31日付で全株式を譲渡し連結除外

■ A-COMS事業 支援内容別売上（2026年1-9月）



A-COMSハイライト

国内約50,000院の鍼灸接骨院市場のうち約3,000院に導入実績。
サブスク基盤＋自費施術機材の２軸で、療養費依存からの脱却を加速。

リスクと対策

一過性損失・療養費減少・売上規模縮小を認識。A-COMS事業の増収増益と具体的対策で、収益体質の強化を継続。

リスク要因	対策・見通し
① 関係会社株式売却損の計上（1Q） 玩具販売事業の譲渡に伴い関係会社株式売却損130百万円を計上。3Q累計の四半期純利益は117百万円（前年同期比△34.3%）。	**本業の利益で吸収** 本売却損は一過性・非資金損失。営業利益+182.9%、経常利益+166.6%と本業の収益力は大きく向上。通期純利益は180百万円を見込む。
② 鍼灸接骨院市場の療養費減少 保険収入（療養費）減少傾向が継続。業界全体の構造課題。	**自費施術領域へのシフトと高採算オリジナル機材販売** AIデバイス「アトラゲージ」等の独自機材を拡販。営業活動・セミナー強化により自費施術機材の市場開拓を加速。
③ 連結売上規模の縮小（△14.2%） 玩具販売事業の譲渡により3Q累計の連結売上高は2,425百万円。通期も3,000百万円と前期比△23.6%の見込み。	**売上規模より利益率・利益額を優先する経営方針** A-COMS事業は+18.3%の増収。売上総利益率は35.0%→38.9%へ改善し、スリムかつ高収益な事業構造への転換が進展。
④ 上方修正後の通期計画の達成 3Q累計の進捗率は売上高80.8%・営業利益83.8%・経常利益82.2%。4Qも計画の着実な実行が必要。	**A-COMS事業の増益基調が継続** 3Q累計の営業利益は251百万円（前年同期比+182.9%）。サブスク型収益の積み上げと機材販売で通期営業利益300百万円の達成を目指す。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

貸借対照表（B/S）構成比推移

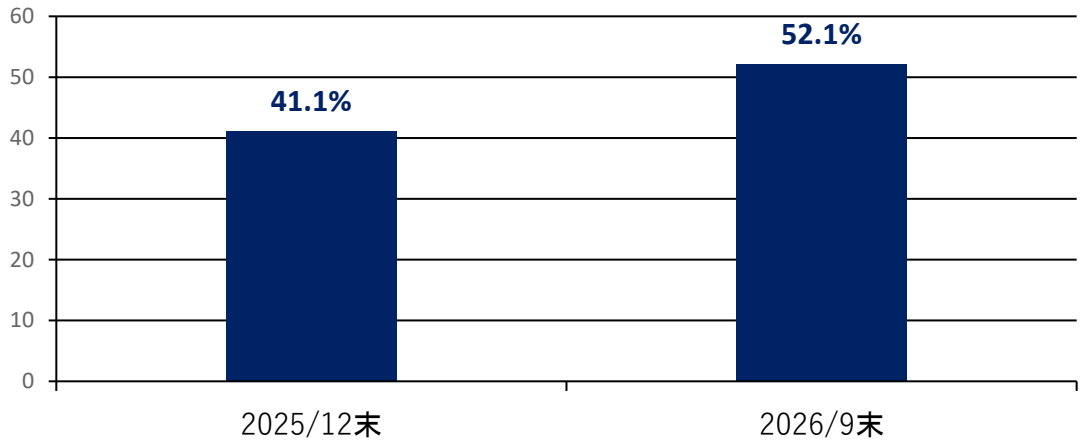
総資産は△478百万円圧縮する一方、純資産は+213百万円増加。自己資本比率は41.1%→52.1%へ大きく改善（+11.0pt）。

■ 主要B/S指標（連結）

指標	2025/12末	2026/9末	増減
流動資産	2,786	2,459	△326
固定資産	1,341	1,189	△152
（うち有形固定）	146	251	+105
（うち無形固定）	116	142	+26
資産合計	**4,127**	**3,648**	**△478**
流動負債	1,398	1,058	△340
（うち買掛金）	302	42	△259
固定負債	1,032	681	△351
（うち長期借入金）	797	523	△274
負債合計	**2,431**	**1,739**	**△692**
純資産合計	**1,695**	**1,909**	**+213**
自己資本比率	**41.1%**	**52.1%**	**+11.0pt**

（単位：百万円）

■ 自己資本比率の推移



+11.0pt 改善（41.1% → 52.1%）

買掛金△259百万円・長期借入金△274百万円の圧縮、在庫圧縮（商品△358百万円）により総資産をスリム化しつつ、純資産は増加。

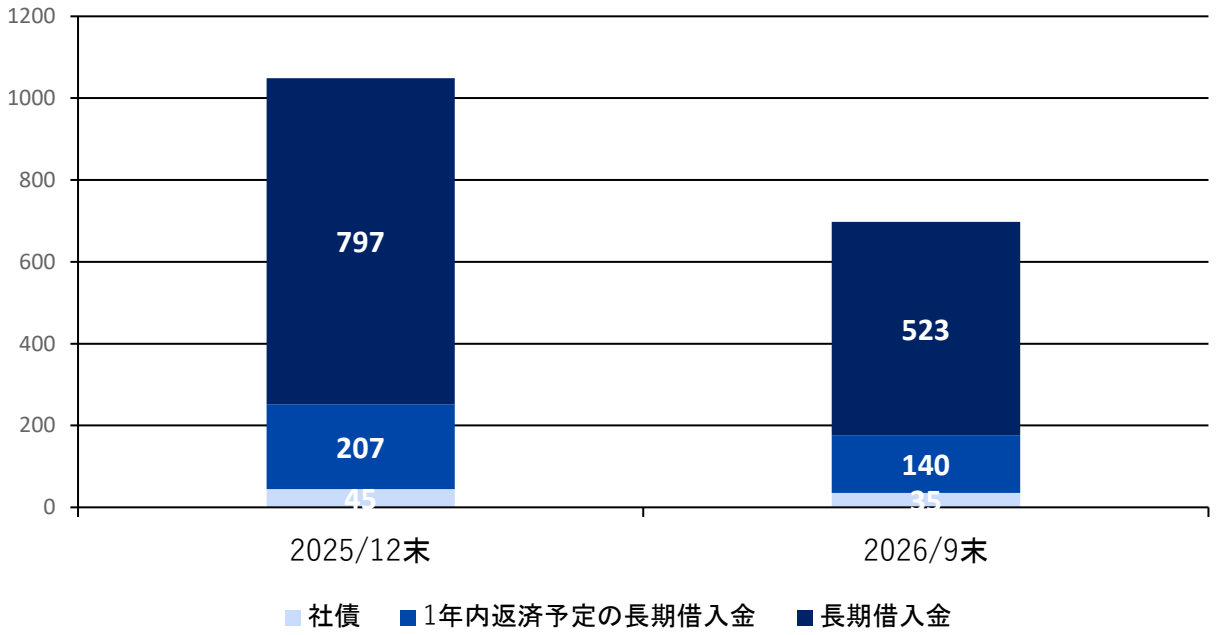
純資産+213百万円の主因

四半期純利益117百万円の計上に加え、新株予約権の行使により資本金・資本準備金がそれぞれ46百万円増加。

有利子負債・自己資本比率の推移

有利子負債は△351百万円圧縮（1,050→699）。自己資本比率も41.1%→52.1%へ上昇し、財務基盤は着実に強化。

■ 有利子負債残高（連結）



合計：1,050百万円 → 合計：699百万円（△351）

■ 自己資本比率（連結）

52.1%

+11.0pt 改善

▶ 自己資本比率改善の要因

① 長期借入金 △274百万円（返済を継続）
② 買掛金 △259百万円
③ 商品（棚卸資産） △358百万円（在庫圧縮）
④ 総資産 △478百万円（負債圧縮と資産効率化）

※ 純資産は四半期純利益117百万円の計上、新株予約権の行使等により+213百万円増加

▶ 引続き有利子負債の圧縮と本業利益の積み上げで、財務健全性を更に強化。

（単位：百万円）

通期業績予想（修正後）と進捗率

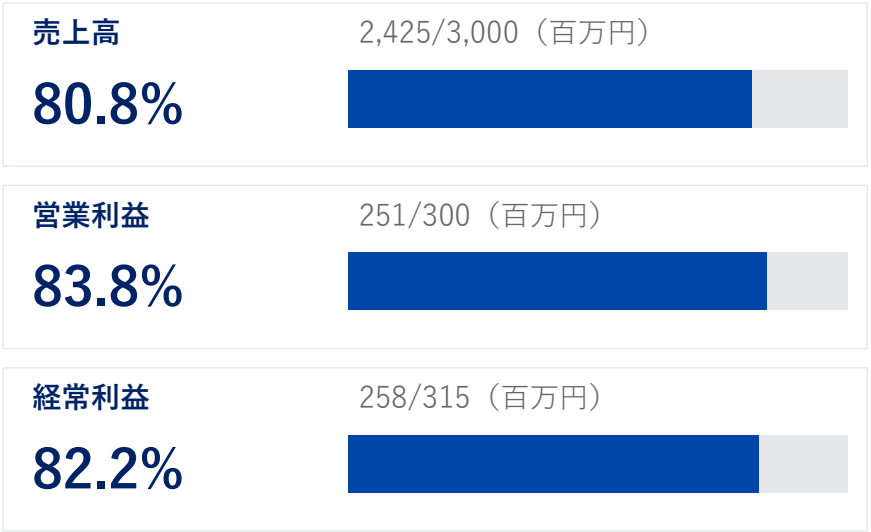
3Q累計の各利益は前回の通期予想を上回る水準。通期予想を売上高3,000・営業利益300百万円へ上方修正（今期3回目）。

■ 通期業績予想の修正（11月13日付）

指標	前回予想（8/7公表）	今回修正	増減額	増減率
売上高	2,700	3,000	+300	+11.1%
営業利益	160	300	+140	+87.5%
経常利益	165	315	+150	+90.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	15	180	+165	+1,100.0%
1株当たり当期純利益（円）	1.46	17.02	+15.56	—

（単位：百万円）

■ 3Q累計の進捗率（修正後予想比）



▶ 修正の理由（要約）

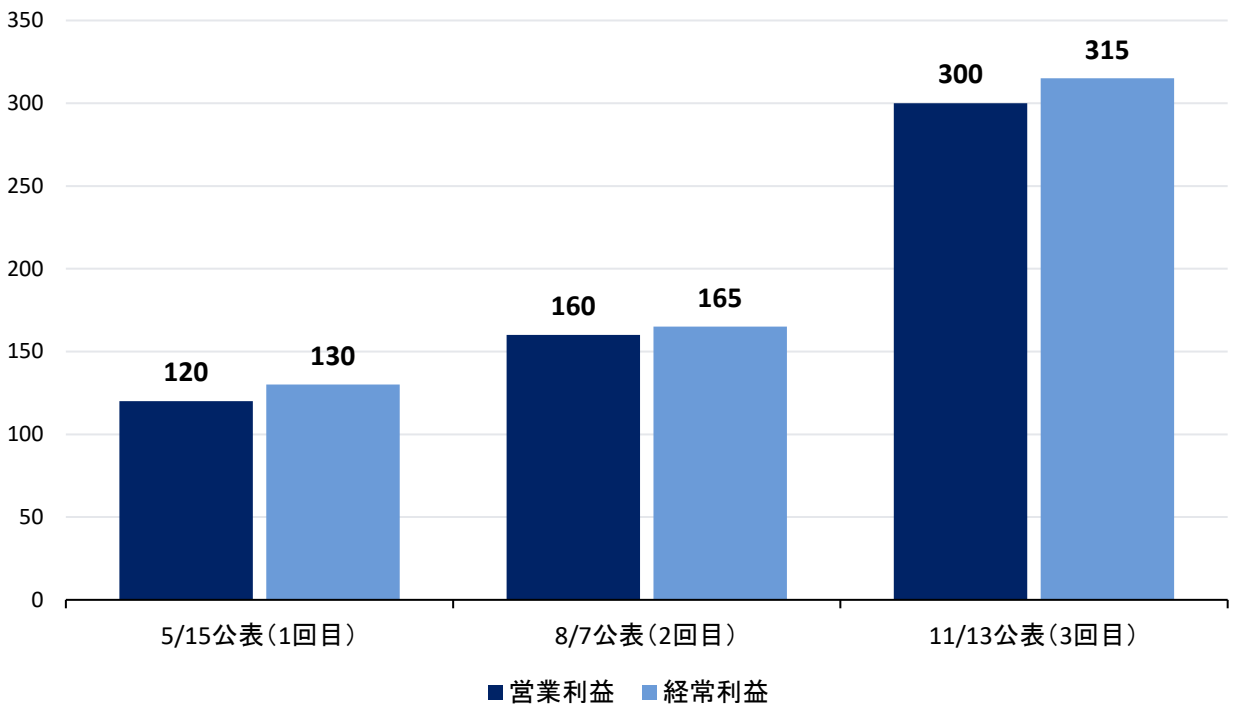
① 売上高：2,700→3,000百万円（+300）。A-COMS事業の全部門が前年同期を上回り、特に機材・消耗品販売が好調。
② 営業利益・経常利益：300/315百万円へ上方修正（+140/+150）。いずれも前期実績の2倍超の水準を見込む。
③ 純利益：15→180百万円（+165）。1Qに計上した関係会社株式売却損の影響を本業の利益で吸収する見込み。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

通期業績予想の推移 ― 期中3回の修正

期中3回の修正を経て、通期営業利益の見通しは120百万円から300百万円へ。足元の実績の積み上げを反映。

■ 通期 営業利益・経常利益予想の推移（百万円）



（参考）前期実績：営業利益140百万円／経常利益148百万円

■ 通期業績予想の修正経過（百万円）

	5/15（1回目）	8/7（2回目）	11/13（3回目）	前期実績
売上高	2,400	2,700	**3,000**	3,927
営業利益	120	160	**300**	140
経常利益	130	165	**315**	148
当期純利益	△25	15	**180**	258

■ 上方修正の主な要因

① 玩具販売事業の連結除外により、損失要因が解消
② A-COMS事業の全部門が前年同期を上回り、特に機材・消耗品販売が好調（3Q累計 +32.6%）
③ 販管費の効率化（3Q累計 前年同期比 △23.0%）
→ 3Q累計の営業利益251百万円は、8/7時点の通期予想（160百万円）を既に上回る水準

▶ 足元の実績を確認しながら段階的に見直し。確度を重視した計画運営を継続してまいります。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

成長の3層構造 — 足元を固め、次の柱を育てる

鍼灸接骨院・介護の現場で培った基盤を土台に、ヘルスケア領域を拡げ、医療・介護の現場へのロボット実装を目指す。

（上段ほど中長期の成長領域）

新領域 医療・介護 × ロボティクス	・SIbot株式会社（RBB株式会社との合弁、当社出資51%）を通じ、医療・介護・ヘルスケア領域でのロボットの社会実装を目指す ・担い手不足が深刻化する施術・介護の現場に向け、ロボットの学習用データを生成する「データファクトリー」の整備を計画（産業分野での実用化から段階的に着手）	**立ち上げ期** 2026年中に事業開始予定
拡張 ヘルスケア領域への拡張	・クオンタムリープ株式会社（資本業務提携）、REMED社（MOU締結・協議中）、NEC等との連携 ・自費施術・医療連携を強化し、順次、他のヘルスケア業界へ領域を拡大	**具体化に向けた段階** 協業内容の協議・準備を推進
基盤 A-COMS本業（医療・介護）	・鍼灸接骨院を中心に約3,000院への導入実績。介護（ほねつぎデイサービス）も展開 ・3Q累計：売上高2,051百万円（+18.3%）／セグメント利益257百万円（+105.8%）	**収益の柱** 増収増益が継続

▶ 本業の利益で財務基盤を強化しつつ、新領域への投資は段階的に。新規事業の所要資金は自己資金で手当てする方針です。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

成長戦略ロードマップ ― A-COMSを軸とした段階的事業拡大

A-COMSプラットフォームを起点に、医療・矯正・美容・リラクゼーション市場へ段階的に拡張。リバース・エイジング提供基盤として収益機会を多様化。

アトラグループ既存事業領域

市場規模 9,850億円
※介護市場除く

鍼灸接骨院・介護事業

鍼灸
免疫・経穴・神経

ほねつぎ
骨・筋肉・関節

美容施術
πテラピー・マロン鍼

介護
抗加齢・機能回復

A-COMS（院内管理システム）

リバース・エイジング（若返り）提供のためのプラットフォーム

▶ 不採算事業／投資案件の選別とアクション → 経営リソースの最適化

段階的に拡大する成長市場

医療市場（整形外科等） — 数十兆円規模
内整形外科関連8,000億円

歯科市場 — 数兆円規模
マウスピース市場
CAGR 30%、1,000億円（2030年予想）

エステ市場（美容施術） — 数千億円規模
ビューティー × 機能回復

リラクゼーション市場 — 数千億円規模
予防・自費施術領域

▶ 段階的成長

▶ 市場環境： ①更に進む高齢化　②医療費抑制の流れ　③自由診療化

▶ 顧客動向： ①健康への投資拡大　②ニーズの多様化　③境界線の希薄化

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

© ArTra Group Corporation

クオンタムリープとの資本業務提携の概要と期待効果

2025年12月に締結。最先端技術の取り込みでA-COMSプラットフォームの拡張領域を加速。

■ 提携の背景と目的

■ 提携締結時期

2025年12月（資本業務提携開示）

■ 相手先

クオンタムリープ株式会社
（ソニー元CEO出井伸之氏により設立、産業横断のイノベーション支援）

■ 背景

鍼灸接骨院市場の療養費依存からの脱却が業界全体の課題。
自費施術領域・周辺市場（再生医療・エステ・美容）への横断的展開が求められる経営環境。

■ 目的

① A-COMSプラットフォームの拡張性を活かした
医療（再生・歯科）・リラクゼーション・エステ市場への展開
② クオンタムリープの最先端技術ネットワークを活用した
次世代「リバース・エイジング」サービスの共同開発

■ 期待効果（Equity Story）

① **市場規模の拡大**

鍼灸接骨院（約50,000院）から
医療・美容・健康市場へTAM拡大

② **サブスク基盤の強化**

新サービス展開によるARPU向上と
A-COMS継続課金モデルの深化

③ **高採算オリジナル機材の拡販**

アトラゲージ等のAIデバイスを
隣接市場へクロスセル

④ **ブランド価値向上**

「リバース・エイジング」コンセプトの
業界標準化を目指すブランディング

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

A-COMS周辺領域の拡大施策（ブレインテック・歩行センシング・NEC連携等）

複数の技術領域・パートナー連携で、A-COMSの提供価値を「経営支援」から「予防・若返り支援」へ進化。

Tech①
アトラゲージ（自社AIデバイス）

神経可視化・施術支援AIデバイス。

- 医師・施術家向け診療補助
- 自費施術領域の収益基盤を構築
- 高採算オリジナル機材として拡販中
- 3Q累計 機材販売 +32.6%

Tech②
ブレインテック領域

脳機能計測×施術データの融合。

- 自律神経・脳血流データの可視化
- 施術効果の客観評価を実現
- 「治す」から「整える」サービスへ
- クオンタムリープ提携の重点領域

Tech③
歩行センシング

歩行解析による予防・介護領域展開。

- ほねつぎデイサービスとの連携
- 転倒予防・要介護化抑制への貢献
- 介護支援セグメントの成長加速
- 3Q累計 介護支援売上 +4.1%

Tech④
大手企業連携（NEC等）

ICT基盤・データ連携の高度化。

- 大手SIerとのアライアンス
- A-COMSのSaaS化・拡張性向上
- サブスク収益基盤の更なる強化
- 3Q累計 アトラ請求 +4.2%

▶ 単一技術ではなく「Tech×事業×パートナー」の組み合わせで、A-COMS基盤の拡張と独自性を確保。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

新たな事業 — SIbot株式会社（RBB株式会社との合弁）

RBB株式会社との合弁会社を設立し、子会社において新たな事業を開始。中長期的な成長戦略の第一歩と位置づけ。

■ 新会社の概要

名称	SIbot株式会社
出資比率	当社 51.0%／RBB株式会社 49.0% （当社の連結子会社）
資本金	1,000万円
代表者	久世 博之（当社代表取締役会長兼社長）
事業内容	ヒューマノイドロボット等の販売・導入支援、学習用データを収集・生成する「データファクトリー」の整備・運営（計画）
日程	10/29 取締役会決議／10/31 設立（予定） 2026年中 事業開始（予定）
支出予定	総額 約150百万円（設備100百万円、内装・開業準備等50百万円） 自己資金で手当て

■ 設立の背景と狙い

1 担い手不足
医療・介護・ヘルスケアの現場で人手不足が深刻化。現場負担の軽減が業界共通の課題

2 データ不足
ロボット（フィジカルAI）の性能を左右する実世界データが不足

3 両社の強み
当社の施術・介護の現場基盤・顧客ネットワーク × RBB社の技術力・調達力

ステップ
産業分野での実用化から着手し、将来的には医療・介護の現場で活用可能なロボットのデータ基盤構築を目指す

業績への影響：2026年12月期の連結業績への影響は軽微。2027年12月期以降の連結売上高の増加に寄与する見込みである一方、事業開始当初は設備の減価償却費等の費用が先行する見込みです。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

© ArTra Group Corporation

トピックス ― REMED社との業務提携の進捗

2026年4月21日付でREMED社と業務提携に関する覚書（MOU）を締結。個別契約の締結を含む具体的な協業内容について、引き続き協議を進めています。

■ 業務提携の概要

■ 提携先

Remed Co., Ltd.（韓国KOSDAQ上場、コード：302550）

■ 事業内容

経頭蓋磁気刺激（TMS）・神経筋磁気刺激（NMS）・
衝撃波治療（ESWT）等、非侵襲的磁場治療機器の
開発・製造・販売（北米・欧州にも事業展開）

■ 締結日

2026年4月21日付（業務提携覚書（MOU）締結）

■ 提携の目的

医療・リハビリテーション・美容器具分野を含む
事業全般における相互協力の基盤を確立

■ 期間

署名日より1年間

▶ 当期業績への影響は軽微。進捗は適時にお知らせします。

■ アトラグループ成長戦略との接続

A-COMS × REMED社技術 ― 自費施術メニューの拡充

NMS（神経筋磁気刺激）

接骨施術との親和性が高く、インナーマッスルトレーニング・慢性痛ケアの自費メニューを拡充

TMS（脳磁気刺激）

加齢・認知機能低下層へのアプローチ。「ナチュラル・リバース・エイジング」理念に合致

AI機器「アトラゲージ」連動

神経・筋肉の可視化→磁気刺激治療→経過管理をA-COMS上でデータ連動型に完結

■ 進捗状況

項目	状況
業務提携覚書（MOU）締結	2026年4月21日（締結済）
個別契約の締結を含む協業内容の協議	協議継続中
製品試験導入・販売開始等	協議の進捗を踏まえ決定

© ArTra Group Corporation

参考資料 — 連結財務諸表（要約）

■ 四半期連結損益計算書（要約）

項目	前3Q累計（25/1-9）	当3Q累計（26/1-9）
売上高	2,827	2,425
売上原価	1,837	1,480
売上総利益	990	945
販管費	901	693
営業利益	88	251
営業外収益	19	19
営業外費用	11	12
経常利益	97	258
特別利益	92	1
特別損失（株式売却損 等）	1	131
税金等調整前四半期純利益	188	128
法人税等合計	9	11
親会社株主に帰属する四半期純利益	178	117

（単位：百万円）

■ セグメント情報

セグメント	前3Q累計	当3Q累計	増減
A-COMS事業	1,733	2,051	+317
玩具販売事業	1,094	373	△720
合計	2,827	2,425	△402

■ セグメント利益（損失）

セグメント	前3Q累計	当3Q累計	増減
A-COMS事業	125	257	+132
玩具販売事業	△37	△7	+30
調整額	1	0	△0
連結営業利益	88	251	+162

■ その他

・減価償却費 66百万円（前年同期 78百万円）
・百万円未満切捨てのため内訳の合計が一致しない場合がある

出典：第22期(2026年12月期) 第3四半期決算短信、業績予想の修正に関するお知らせ

参考資料 — Natural Reverse Aging へのチャレンジ

■ アトラ イノベーション ラボ

Natural Reverse Aging

日本独自の伝統技術と最先端テクノロジーによる若返りプラットフォーム（A-COMS）の提供

Natural Reverse Aging へのチャレンジ

ArTrA INNOVATION LAB

アトライノベーションラボ2026

2026.3.7 SAT 大阪・梅田

THE OSAKA STATION HOTEL,Autograph Collection











参考資料 — 会社概要

■ 企業理念

世界中の人を健康にしたい。
Making the world healthy.

会社名	アトラグループ株式会社（Artra Group Corporation）
本社	大阪府大阪市西区立売堀4丁目6番9号
設立	2005年1月18日
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場・名古屋証券取引所 メイン市場（証券コード：6029）
代表者	代表取締役会長兼社長　久世 博之（キュウセ ヒロユキ）
従業員数	77名（2026年9月末）
所在地	東京事務所　仙台事務所　福岡事務所
グループ会社	アトラファイナンス株式会社 アトラケア株式会社 アトラプランニング株式会社 株式会社ハッピーライフ





アトラグループ株式会社

免責事項

本資料に掲載されている計画、将来における予想などは作成時点で入手可能な情報に基づく見通しであり、リスク及び不確実性が含まれております。実際の業績は経営環境の変動などによりこれらと異なる可能性があります。
また、本資料に掲載されている情報は公開情報から引用したものがありますが、その情報の正確性について保証するものではありません。